



小学5年生児童の野菜摂取状況

小児において野菜や果物を食べる習慣は、肥満やアレルギー疾患予防に有効とされています。

滋賀県下、3つの小学校5年生児童315名（男性：160名）に対し、2名の小児科医の立会いの下で横断的研究が実施されました。

平均ベジスコアは349で、成人の平均ベジスコア343と差がなく、有害事象を経験しませんでした。

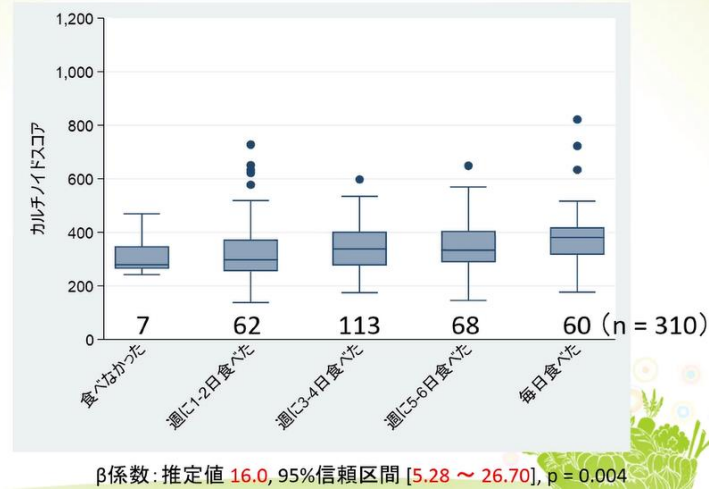
多変量解析において、果物と緑黄色野菜の摂取とベジスコアが相関し、より多くの運動との間に正の相関関係を示しました。



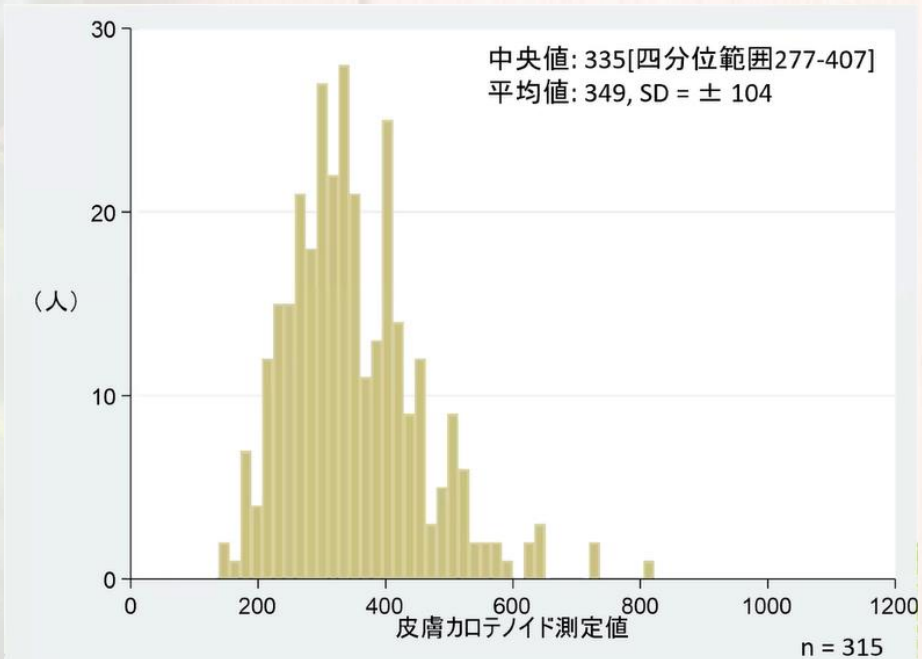
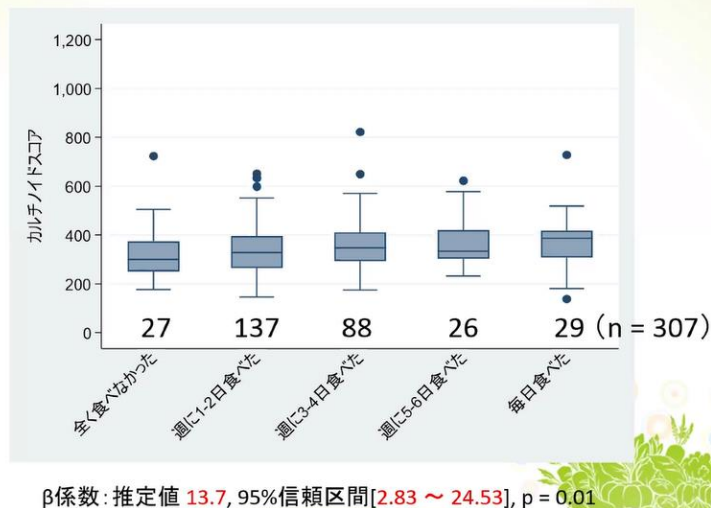
小学5年生児童の野菜摂取状況

Copyright © Longevity Link Japan Corporation. All rights reserved.

1 カルテノイド測定値と緑黄色野菜摂取頻度



3 カルテノイド測定値と果物摂取頻度



解析結果②: 重回帰分析

変数名	β係数 推定値	[95% 信頼区間]		P値
		下限	上限	
緑黄色野菜	20.3	4.60	36.0	0.01
淡黄色野菜	-6.0	-23.2	11.2	0.50
果物	12.5	0.83	24.1	0.04
魚	-21.2	-43.6	1.15	0.06
豆類	6.5	-7.91	20.9	0.38
肉	-19.0	-33.7	-4.24	0.01
インスタント麺	-18.6	-36.4	-0.80	0.04